



関西学院大学教務機構高等教育推進センター

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町 1-155  
TEL.0798-54-7420 FAX.0798-54-7421

第19回(二〇一六年)カレッジ・コミュニティ調査基本報告書

二〇一七

関西学院大学教務機構高等教育推進センター

# われわれの大学を よりよく理解するために (XIX)

— 第19回(2016年)カレッジ・コミュニティ調査基本報告書 —

2017年 3月

関西学院大学教務機構高等教育推進センター

## はじめに

『関西学院大学カレッジ・コミュニティ調査』（以下、CCA 調査）は、1976年から実施され、今回で19回、期間にして40年余にわたって続けられてきた調査である。この間、大学をとりまく環境も劇的に変化し、調査をになう機関も総合教育研究室から高等教育推進センター（2013年度以降、教務機構下のセンター）に移行されている。調査の性格や調査目的も、その間に見直しをうけ、いわゆるIRを志向した調査に衣替えをしてきたことは、前回第18回の「はじめに」にも記したとおりである。

センターでは、CCA 調査と並行して、大学 IR コンソーシアムによる一年生調査・上級生調査、大学間連携共同教育推進事業「教学評価体制（IR ネットワーク）による学士課程教育の質保証」の支援によって開発された「卒業生調査」をあわせて実施しており、これらとの関係を精査することが課題となっていた。結果として、CCA 調査については、今回を最後の調査とすることとした。必要な項目は本センターの各種調査に引き継がれるほか、個別の目的にかかるアンケート項目については、2017年度より稼働予定のKG ポートフォリオに実装されるアンケート機能でその目的を果たすこととなる。

本調査を実施するに当たり、多くの関係者の協力がなければこれまでの歩みはなかったことは言うまでもない。とりわけ、アンケート回答に協力した学生諸氏に、この場を借りて感謝したいと思う。また、調査項目の策定・結果のとりまとめにご尽力いただいた、教職員の方々にも同様の思いである。センターも2017年度より改めて独立のセンターとなる。本調査は歩みを終えることとなったが、センター所轄の各種調査を通じて、関西学院大学の発展に寄与できるよう取り組みたいと考えている。

2017年3月

高等教育推進センター長 平林孝裕

# われわれの大学を よりよく理解するために (XIX)

第19回カレッジ・コミュニティ調査基本報告書

## 目次

---

はじめに	1
<b>I. 調査の概要</b>	
1. 調査の方法	6
2. 調査票構成	6
3. 回収率	6
4. 母集団と回答者の比較	8
5. 回答者の属性	10
(1) GPA	10
(2) ゼミナールへの所属	10
(3) 入試種別	11
(4) 住居	11
(5) 通学時間	12
(6) 団体への加入	12
(7) 支出	13
<b>II. 調査結果の分析</b>	
1. 学生生活の満足度	18
2. 授業の出席度	20
3. 各項目の費やす時間	22
4. 在学中に身に付けたい能力	30
5. 在学中にしたいこと	42
6. 授業区分ごとの熱心度	44
7. 将来の夢や目標	52
8. 目標に向けた取り組み	53
9. 関西学院大学に対する帰属意識や満足度など	55
10. 関西学院大学の推奨度	58
11. スクールモットーの理解度	60
12. 関西学院の使命	62
13. キリスト教の影響	64
14. チャペルへの出席頻度	66
15. 関西学院大学に入学を決めた最も重視した理由	70
16. 関西学院大学の志望順位	72
17. 第一志望の大学とその理由	74
18. 関西学院大学を知った理由	76
19. 大学進学先を検討した時期	78
20. 社会人とのコミュニケーションとその影響	80

---

---

21. 重視する暮らし方	87
22. 学習の方法（情報・資料収集）	91
23. 図書館の利用設備の満足度	94
24. 図書館の資料やサービスの満足度	98
25. コモンズの利用頻度と利用目的	105
26. 留学生や外国人教職員との接触度	109
27. 海外プログラムへの参加	111
28. 留学環境の整備状況	115
29. 通学の最寄り駅について	118
30. 通学手段ならびに自転車・バイクの駐輪場所	121
31. シャトルバスの利用目的	125
32. 大学での昼食	127
33. 学内のアメニティ（生活環境の快適さ）	131
34. 喫煙状況	139
35. ハラスメント相談窓口の認知度	141
36. 授業時間以外に過ごす場所	143
37. 学生が大学提供の Web サービスにアクセスする情報端末	145
38. インターンシップについて	147
39. ボランティアについて	154
40. エクステンションプログラムの認知度・活用度	158
41. 卒業後の生涯学習プログラムの活用希望について	165

### Ⅲ. 自由記述のまとめ

1. 自由記述の回答者	168
2. 自由記述の長さ	169
3. 頻出単語	170
4. 記述内容	172

### Ⅳ. 全体のまとめ

1. 海外プログラムへの参加経験と重視することの関係	176
2. インターンシップの参加	178
3. キリスト教教育	182
4. おわりに	189

### Ⅴ. 資料

第19回カレッジ・コミュニティ調査票	192
--------------------	-----

---

# I 調査の概要

## 1. 調査の方法

第19回調査の方法は以下の通りである。

- 調査期間： 2016年6月1日（水）～7月31日（日）
- 調査対象： 2016年5月6日時点で、本学に在学する全学部学生23,498名（正規生のみ）から、休学や留学中の学生などをのぞいた22,950名から、系統抽出法により5分の1を抽出し、4,590名を対象とした。
- 調査方法： 対象者に調査票と返信用封筒を送付し、7月31日までに返信のあった回答について、集計を行った。
- 回収数： 1,143件 回収率24.9%（ただし、所属学部、学年等が不明な調査票を含む）
- 調査票： 前回に引き続き学生個人の生活実態、目的意識・価値観などに加え、学内の各部局が施策に活用することのできる調査項目で構成している。また、最後に自由記述欄を設けている。
- グラフと表： 比率については、個々の数値を小数点第2位で四捨五入しているため、100%を超える場合や、満たない場合がある。  
所属学部や学年など属性による集計は、属性が不明な回答をのぞいて集計しているため、合計が1,143件とならない場合がある。
- 学部・入試種別比較： 神学部は有効回答数が6件、入試種別では帰国生徒入学試験が7件、社会人入学試験が0件のため、比較する場合は注意が必要である。

## 2. 調査票構成

今回使用した、「第19回カレッジ・コミュニティ調査」の調査票は、本報告書の巻末に添付している。Q1からQ35までの53項目（枝番を含む）と学生自身の所属学部や入試形態などを調査しており、大学生活の実態の把握や学内の各部局が施策に活用することのできる調査項目で構成されている。そして、各調査項目でとらえきれない意見を聞くために自由記述欄を設けている。

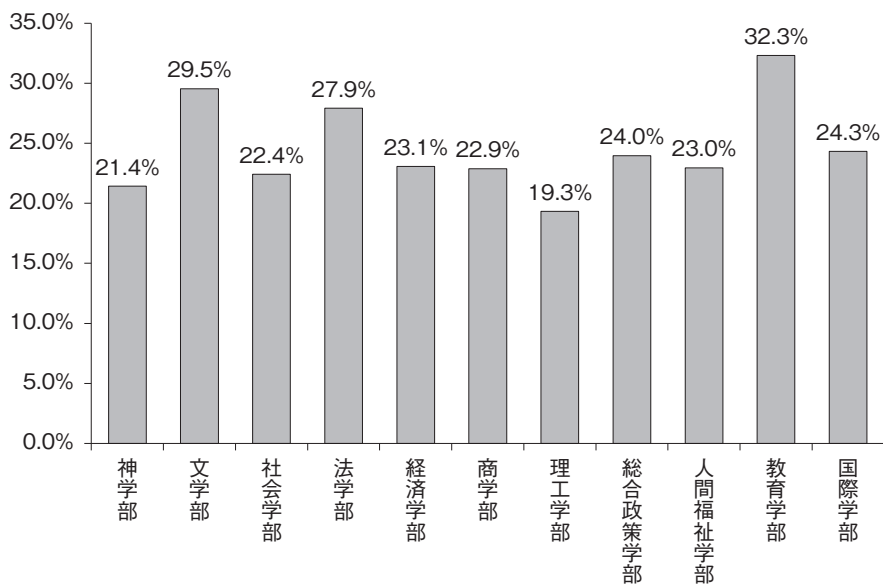
具体的には、大学の満足度、授業の出席や授業外学習などの大学生活の実態、在学中に身につけた能力や将来の夢など目的意識・価値観、および図書館や食堂などの大学施設の評価、インターシップや海外プログラムなどの学生対象のプログラムに関する評価などの充実度・評価についてたずねる質問群で構成されている。

## 3. 回収率

今回の調査は、11学部の全学部学生22,950名（正規生のみを対象に休学や留学中の学生などを除く）から無作為抽出した4,590名に対して行ったもので、回収数は1,143件、回収率は24.9%であった。前回調査の24.1%と同程度の回収率であった。

学部別の回収率は、19.3%～32.3%となっており、教育学部、文学部、法学部の順に高い結果となっている。

図 I -3-1 学部別回収率



学年別の回収率は、1年生33.6%（前回27.9%）、2年生24.0%（22.7%）、3年生21.8%（22.3%）、4年生19.1%（23.5%）と、今回は4年生が最も低い結果となった。

男女別では、男性19.5%（前回18.6%）、女性30.4%（30.1%）となっており、これまでの調査と同様、女性の回収率が高い。

図 I -3-2 学年別回収率

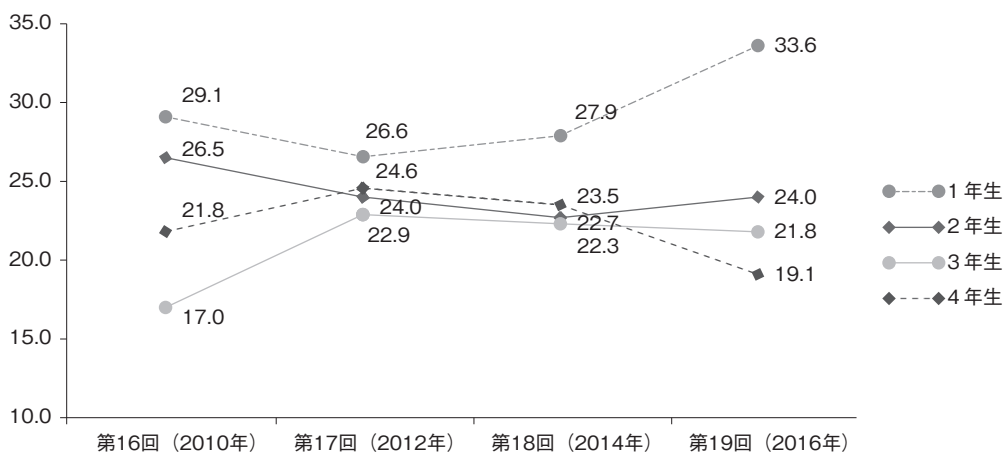
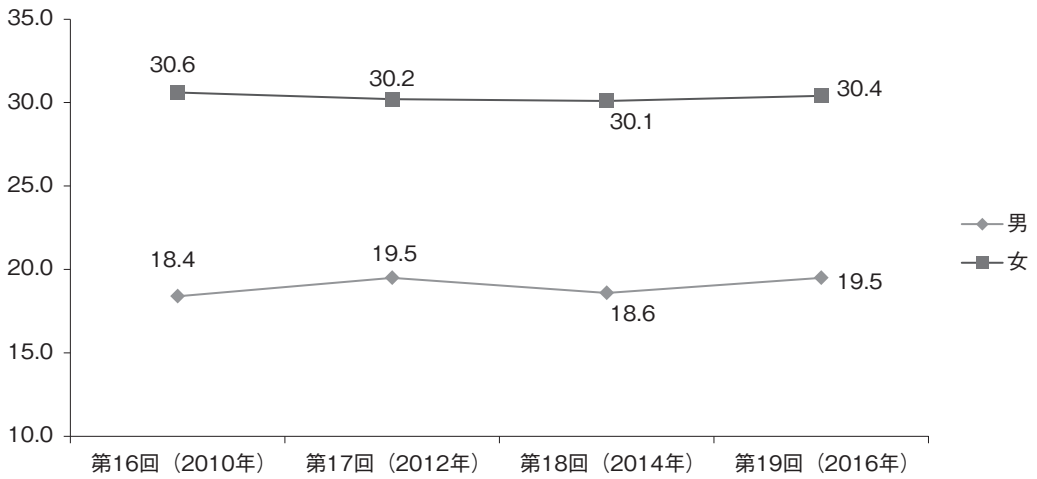


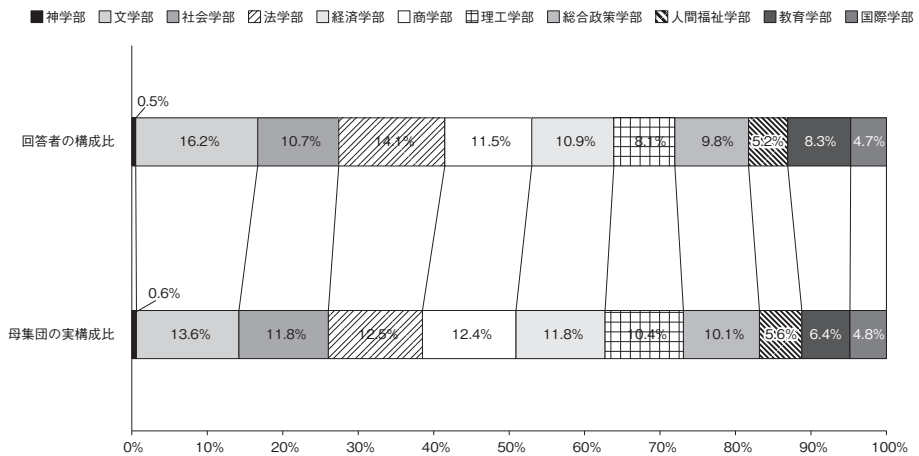
図 I-3-3 男女別回収率



#### 4. 母集団と回答者の比較

回答者と母集団の構成比率の差について、学部別で見ると、乖離が一番大きいのは、文学部が回答者の比率が16.2%で、母集団の比率が13.6%と+2.6ポイント差である。次いで乖離が大きいのは理工学部であり、回答者の比率8.1%、母集団の比率10.4%と-2.3ポイント差となっている。各学部とも、+2.6~-2.3ポイントと概ね±3ポイント以内にとどまっている。

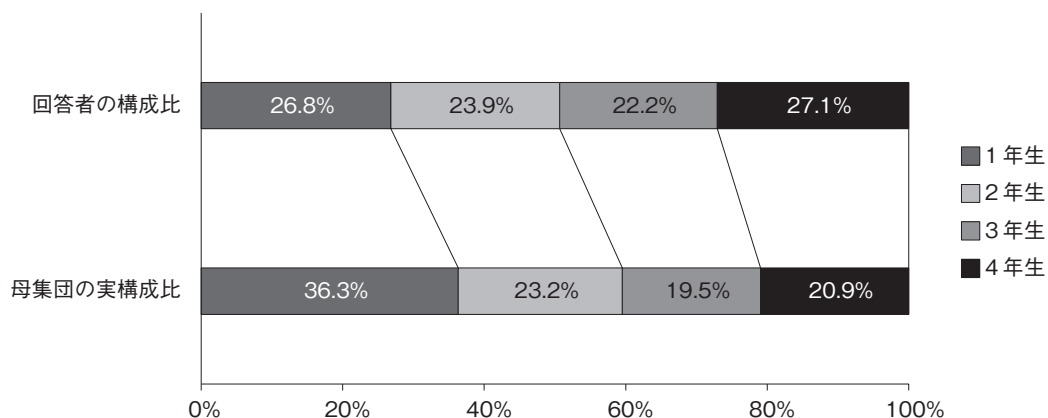
図 I-4-1 学部別構成比





学年別の構成比率の差は、1年生から、+9.5、-0.7、-2.7、-6.2ポイントで、1年生の乖離が大きくなっている。

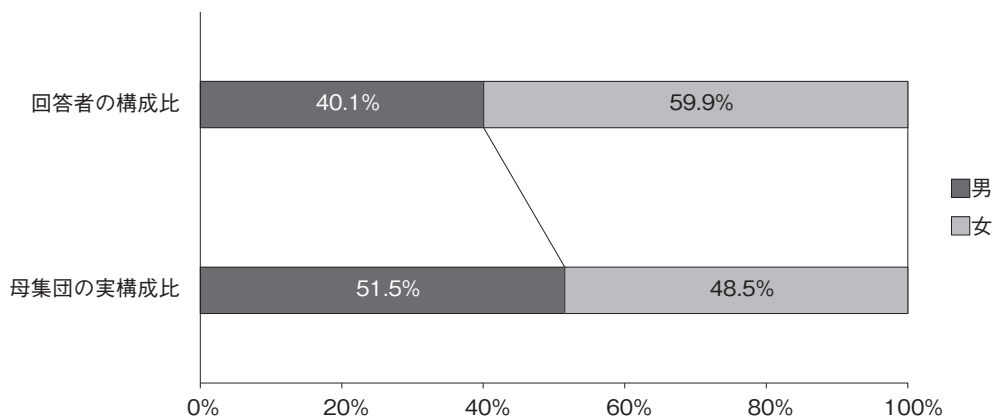
図 I-4-2 学年別構成比



男女別では、母集団の構成比が男性51.5%、女性48.5%であるのに対し、回答者の構成比は、男性40.1%、女性59.9%と、11ポイントを超える差がある。

これらの傾向は、これまでの調査とほぼ同様の傾向を示しており、特定の学部・学年の影響を大きく受けていないが、性別については、女性の影響がやや強く表れている調査結果となっている。

図 I-4-3 男女別構成比

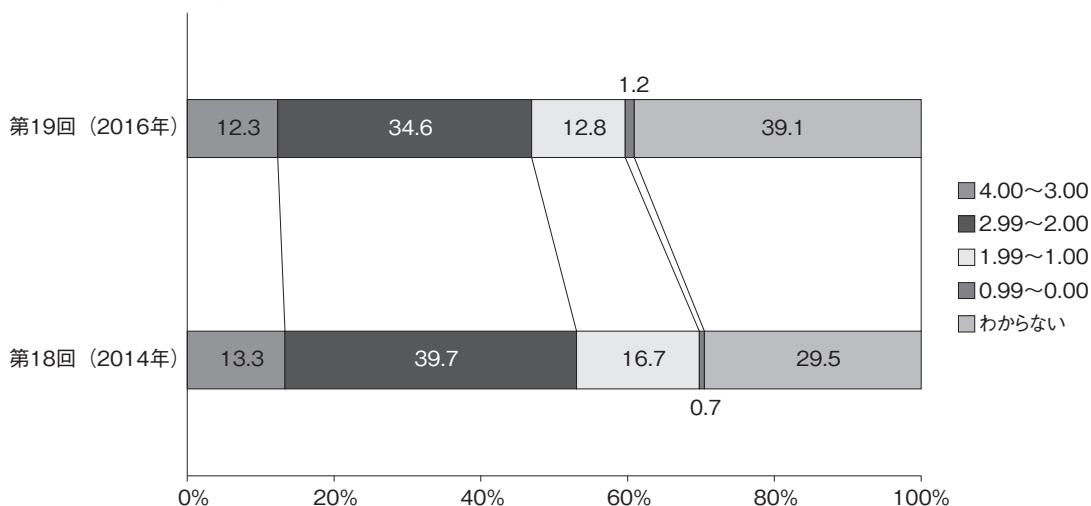


## 5. 回答者の属性

### (1) GPA

GPA については、4.00～3.00が12.3%（前回13.3%）、2.99～2.00が34.6%（同39.7%）、1.99～1.00が12.8%（同16.7%）、0.99～0.00が1.2%（同0.7%）、わからないが39.1%（同29.5%）という分布であった。選択肢「わからない」が前回より10%以上増えているため、GPA で比較することは難しくなっている。今後は記名式調査を導入することで、フェース部分の回答をなくすなど、今後は回答や分析しやすい工夫が必要である。なお、母集団の GPA は非公開である。

図 I-5-1 GPA 別構成比



### (2) ゼミナールへの所属

ゼミナールへの所属については、ゼミナールの所属有無で学修行動等に差があるのかどうかを確認する目的で、今回調査から加えた項目である。所属しているが428人（37.7%）、所属していないが213人（18.8%）、希望したが入れなかったが7人（0.6%）、ゼミナールに所属する学年ではないが486人（42.9%）という結果となった。

しかしながら、多くの学部で1年生の初年次演習科目が必須科目であるにも関わらず、ゼミナールという名称が2年生もしくは3年生以上の研究演習をイメージしたのか、多くの1年生が「所属していない」と回答していた。次回以降は設問の方法を検討する必要がある。

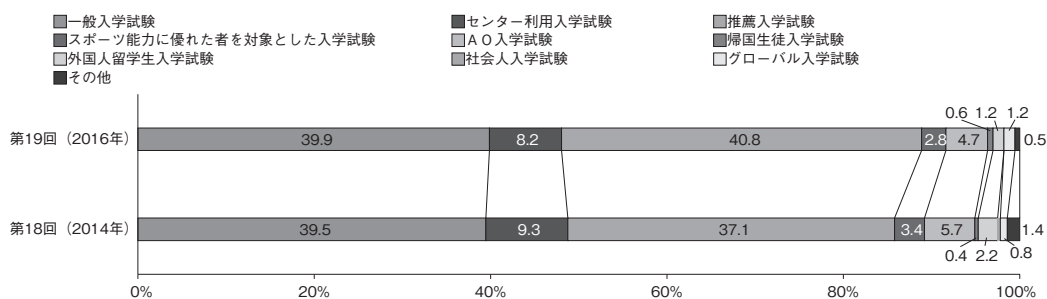
表 I-5 ゼミナール所属状況（学年別）

調査項目	学年	人数
所属している	1年生	6
	2年生	20
	3年生	186
	4年生	216
	合計	428
所属していない	1年生	97
	2年生	75
	3年生	22
	4年生	19
	合計	213
希望したが 入れなかった	1年生	0
	2年生	1
	3年生	5
	4年生	1
	合計	7
ゼミナールに所属する 学年ではない	1年生	308
	2年生	166
	3年生	9
	4年生	2
	合計	486

### (3) 入試種別

入試種別については、前回と同一の調査項目である。一般入学試験が39.9%（前回39.5%）、センター利用入学試験が8.2%（同9.3%）、推薦入学試験が40.8%（同37.1%）、スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験が2.8%（同3.4%）、AO入学試験が4.7%（同5.7%）、帰国生徒入学試験が0.6%（同0.4%）、外国人留学生入学試験が1.2%（同2.2%）、社会人入学試験0.0%（同0.3%）、グローバル入学試験1.2%（同0.8%）、その他0.5%（同1.4%）という結果であった。社会人入学試験については回答者がいなかった。なお、母集団の入試種別は非公開である。

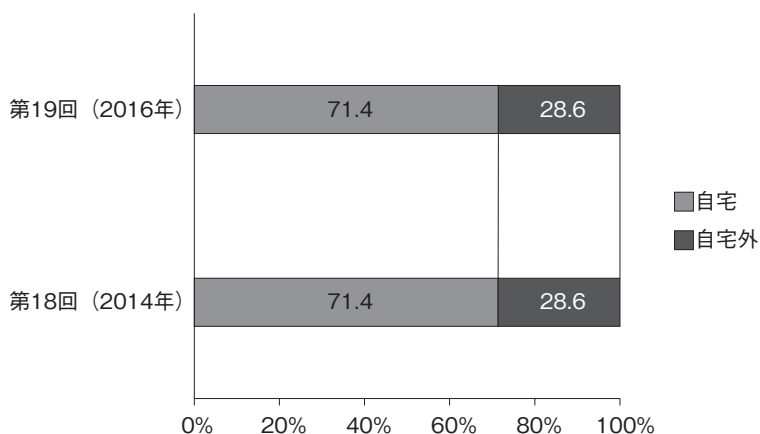
図 I-5-2 入試形態別構成比



### (4) 住居

住居については、前回調査（2014年度）において「自宅」と「自宅外」の2つの項目に見直しを行った。自宅生が71.4%（前回71.4%）、自宅外生が28.6%（同28.6%）と、自宅生と自宅外生の比率は前回と同じの結果となった。

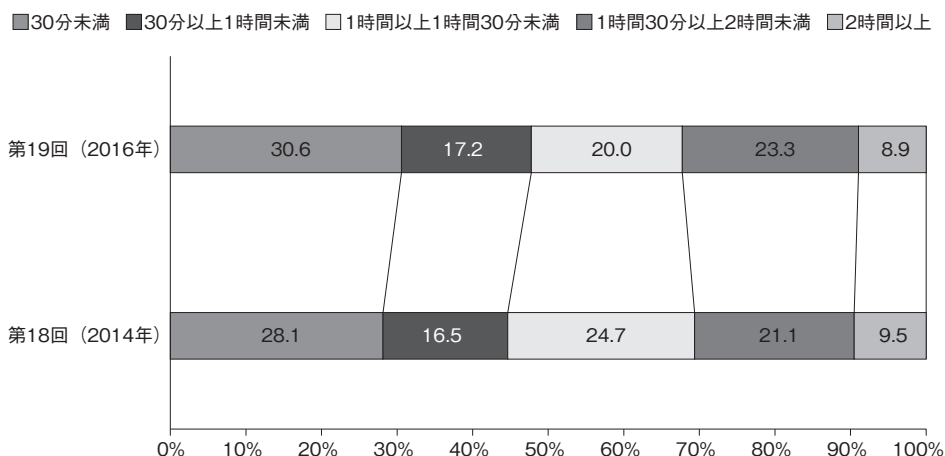
図 I-5-3 住居別構成比



### (5) 通学時間

通学時間については、30分未満の学生が30.6%（前回28.1%）、30分以上1時間未満が17.2%（同16.5%）、1時間以上1時間30分未満が20.0%（同24.7%）、1時間30分以上2時間未満が23.3%（同21.1%）、2時間以上かかる学生が8.9%（同9.5%）となった。前回調査の結果とそれほど大きな差はなかった。

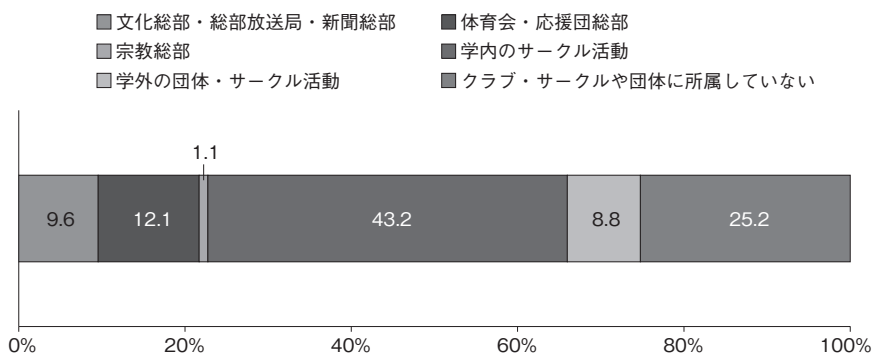
図 I-5-4 通学時間



### (6) 団体への加入

クラブやサークル等の団体への加入の有無については、前回調査までは「加入の有無」、「加入団体の内訳」の調査を行っていたが、今回より1項目にまとめた。今回より「クラブ・サークルや団体に所属していない」以外の回答者を加入者としており、（未回答者ものぞく）加入者は74.8%（前回74.4%）であった。2006年の調査以降62.9%、65.4%、71.2%、72.8%、74.4%と増加傾向が続いている。なお、所属団体の種別については、学内のサークルへの参加が43.2%と一番多く、各総部を含めた学内クラブ・サークルの加入割合は回答者全体の66%となっている。

図 I-5-5 団体加入の有無



### (7) 支出

回答者の1ヶ月の平均支出（授業料、実習費を含まない、自宅外生は部屋代、食費を含む）を1万円単位の階層ごとに見てみると、自宅生では、前回と前々回とも2万円台の割合が一番高かったが、今回一番割合が高かったのは、3万円台の20.7%（前回18.3%）であった。ただ、1万円未満の学生を含めた3万円未満の学生が前回の47.7%から48.8%と増加していることから、支出が増加傾向にあるわけではない。一方、自宅外生は、10万円台が24.8%（同23.0%）が一番多い傾向は変わらないが、前回に引き続き、12万円台の割合が11.3%（同10.4%）と増加している。

図 I-5-6 1カ月の平均支出（自宅生）

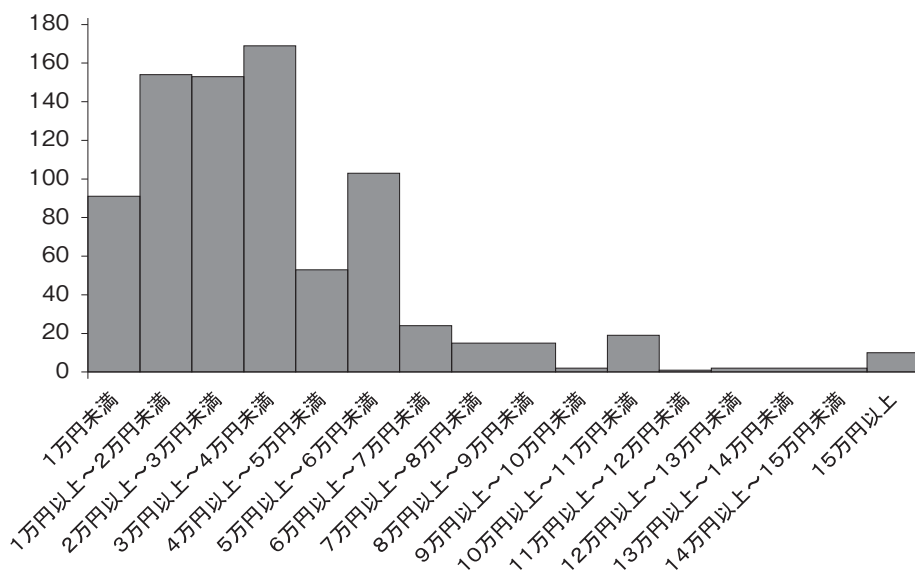


図 I-5-7 1カ月の平均支出（自宅外生）

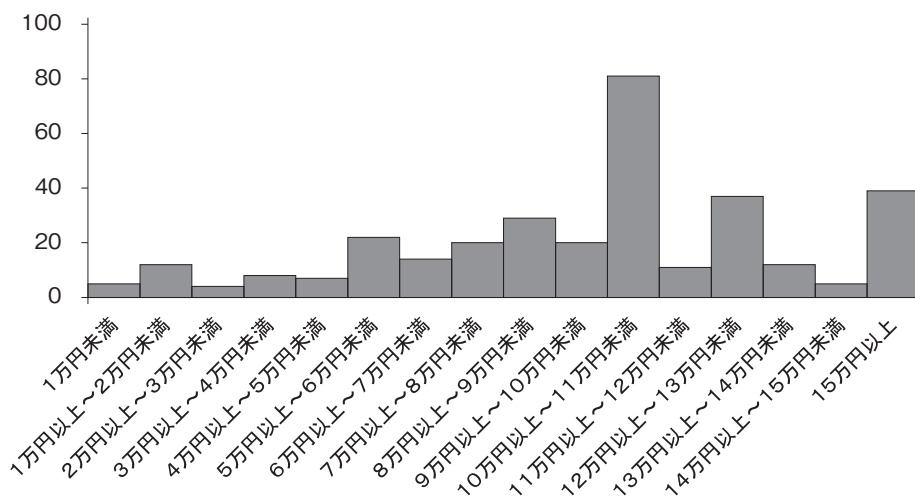


表 I-6-1：サンプルの構成ならびに有効回投票数・回収率

学部	学年	在学生数(※)			A 対象者数(人)			B 回答票数(人)				回収率 B/A×100
		男	女	合計	男	女	合計	男	女	無回答	合計	
神学部	1	27	10	37	7	0	7	3	0	0	3	42.9%
	2	19	11	30	6	0	6	1	0	0	1	16.7%
	3	17	16	33	3	4	7	0	1	0	1	14.3%
	4	33	10	43	5	3	8	0	1	0	1	12.5%
	合計	96	47	143	21	7	28	4	2	0	6	21.4%
文学部	1	272	570	842	64	104	168	22	42	0	64	38.1%
	2	229	559	788	42	116	158	8	41	0	49	31.0%
	3	213	442	655	39	92	131	8	28	0	36	27.5%
	4	278	553	831	50	116	166	8	27	0	35	21.1%
	合計	992	2,124	3,116	195	428	623	46	138	0	184	29.5%
社会学部	1	298	407	705	55	86	141	12	33	0	45	31.9%
	2	295	372	667	62	71	133	10	20	0	30	22.6%
	3	262	354	616	58	65	123	8	18	0	26	21.1%
	4	341	390	731	69	78	147	4	17	0	21	14.3%
	合計	1,196	1,523	2,719	244	300	544	34	88	0	122	22.4%
法学部	1	394	316	710	78	64	142	25	30	0	55	38.7%
	2	398	275	673	84	51	135	18	15	0	33	24.4%
	3	401	249	650	81	49	130	16	19	0	35	26.9%
	4	533	296	829	109	57	166	20	17	0	37	22.3%
	合計	1,726	1,136	2,862	352	221	573	79	81	0	160	27.9%
経済学部	1	485	230	715	97	46	143	30	19	0	49	34.3%
	2	487	212	699	96	44	140	23	16	0	39	27.9%
	3	446	187	633	93	33	126	15	4	0	19	15.1%
	4	586	210	796	116	43	159	14	10	0	24	15.1%
	合計	2,004	839	2,843	402	166	568	82	49	0	131	23.1%
商学部	1	411	327	738	77	70	147	18	27	0	45	30.6%
	2	334	262	596	64	56	120	13	15	0	28	23.3%
	3	385	269	654	66	64	130	11	14	0	25	19.2%
	4	439	283	722	86	59	145	10	16	0	26	17.9%
	合計	1,569	1,141	2,710	293	249	542	52	72	0	124	22.9%
理工学部	1	589	207	796	121	38	159	35	9	0	44	27.7%
	2	394	155	549	77	33	110	8	10	0	18	16.4%
	3	367	120	487	72	25	97	10	6	0	16	16.5%
	4	419	130	549	86	24	110	11	3	0	14	12.7%
	合計	1,769	612	2,381	356	120	476	64	28	0	92	19.3%
総合政策学部	1	269	333	602	50	70	120	10	28	0	38	31.7%
	2	273	302	575	51	64	115	11	10	0	21	18.3%
	3	216	288	504	39	62	101	5	19	0	24	23.8%
	4	294	339	633	56	71	127	10	18	0	28	22.0%
	合計	1,052	1,262	2,314	196	267	463	36	75	0	111	24.0%
人間福祉学部	1	128	175	303	27	33	60	7	9	0	16	26.7%
	2	117	179	296	23	36	59	2	9	0	11	18.6%
	3	133	176	309	25	37	62	3	11	0	14	22.6%
	4	156	222	378	35	41	76	3	15	0	18	23.7%
	合計	534	752	1,286	110	147	257	15	44	0	59	23.0%
教育学部	1	125	239	364	22	51	73	9	22	0	31	42.5%
	2	116	257	373	28	47	75	5	16	0	21	28.0%
	3	116	236	352	22	48	70	8	10	0	18	25.7%
	4	133	245	378	22	54	76	5	20	0	25	32.9%
	合計	490	977	1,467	94	200	294	27	68	0	95	32.3%
国際学部	1	121	217	338	28	40	68	10	13	0	23	33.8%
	2	84	152	236	14	33	47	2	11	0	13	27.7%
	3	66	147	213	12	31	43	2	6	0	8	18.6%
	4	121	201	322	27	37	64	2	7	0	9	14.1%
	不明	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	N.A.
合計	392	717	1,109	81	141	222	17	37	0	54	24.3%	
無回答		0	0	0	0	0	0	0	5	5	—	
総計		11,820	11,130	22,950	2,344	2,246	4,590	456	682	5	1,143	24.9%

※正規生から休学中や留学中の学生を除いた数

